

## 「オーガニックビレッジ」の宣言

### ～有機農業や環境創造型農業の推進を目指して～

本市では、農林水産省が策定した食糧生産の方針「みどりの食料システム戦略」を踏まえ、昨年度から有機農業産地づくり推進事業に取り組み、このたび有機農業実施計画を策定した。

本計画の着実な推進に向けて、「オーガニックビレッジ」を宣言する。

#### 1 オーガニックビレッジ宣言の概要

有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取組を進める市町村が、国のみどりの食料システム戦略推進交付金を活用して「有機農業実施計画」を策定し、これを広く周知するために宣言を行うもの。今後、本市では本交付金を活用して、有機農業や環境創造型農業を推進する。

なお、4月18日時点で、全国29の市町村が宣言済。県内では丹波市が宣言済である。

#### 2 「オーガニックビレッジ」宣言式

- (1) 日時 2023年4月28日（金）＊会見終了後
- (2) 宣言者 豊岡市長 関貫久仁郎
- (3) 立会人 JAたじま代表理事組合長 太田垣哲男氏  
豊岡農林水産振興事務所長 堀川 道信氏

#### 3 宣言内容

3－2ページ参照

#### 4 有機農業実施計画

##### (1) 策定経過

2022年8月に生産者、流通事業者、実需者及び関係機関で構成される豊岡市有機農業実施計画策定委員会（7人）を設置し、4回の委員会を開催し、策定した。

##### (2) 策定日

2023年4月28日

##### (3) 主な取組内容

###### ア 有機農業の普及

新規に有機農業に取り組みたいものに対し、研修会や支援を行い、有機農業者の増加、取組面積の拡大を図る。

###### イ 有機農産物の学校給食での使用

米は2027年度までに全量（約90t）を有機米（栽培期間中化学肥料及び農薬不使用で栽培された米）に転換する。

野菜は、「有機の日」を設定し、有機野菜の使用品目数の増加を目指す。

###### ウ 地元飲食店等での利用促進

観光地（城崎温泉等）のレストランや旅館等で、地元産有機農産物の活用、利用拡大について推進等を行う。

###### エ 新たな消費・流通システムの検討

有機農産物の安定的な販売・生産を可能にするため、地域支援型農業（CSA）（※1）など新たな仕組みの導入について検討する。

※1 地域支援型農業(CSA)

CSAはCommunity Supported Agricultureの略。農産物のセット購入を年間あるいは半年といった期間で、前払いする契約方式

(4) 5年後に目指す目標

項目	2021年度	2027年度
学校給食に無農薬米を提供する量	0.0t	90t(全量)
学校給食で「有機の日」実施回数	0回	12回
学校給食に提供する無農薬野菜品目数	0品目	10品目
有機農業の面積拡大	260ha	280ha
有機農業に取り組む農業者等	41戸	50戸

(5) 計画対象期間

2023(令和5)年度～2027(令和9)年度



---



豊岡市では、一度は絶滅したコウノトリを人里に帰すプロジェクトに、まちをあげて取り組んでいます。半世紀以上に及ぶ関係者の努力により、今や野外のコウノトリは300羽を超えるまでになりました。

その取り組みの一つとして、コウノトリも住める豊かな環境は、私たちにとっても豊かな環境だと信じて、有機農業や環境創造型農業を推進し、農薬に頼らない「コウノトリ育む農法」による米づくりを進めてきました。

このまちの次代を担う子どもたちは、大空を舞うコウノトリや「農業」を通じて人と生きものとの共生を学んでいます。

この取り組みをさらに深めていくため、子どもたちが食べる学校給食用米のすべてに有機米を使用し、有機野菜も順次提供していくことで、「食」を通じた地域ぐるみでの有機農業や環境創造型農業をさらに推進することを目指し、ここに、「オーガニックビレッジ」を宣言します。



豊岡  
グッドローカル  
農業  
Toyooka Good Local Agriculture

2023年4月28日

豊岡市長 **関貫久仁郎**

オーガニックビレッジ宣言書

〔問合せ〕 コウノトリ共生部農林水産課農業政策係 TEL0796-23-1127(直通)